

カリッソーCSRレポート

2025



KARITSU

すべてのステークホルダーの皆さまに 「安心」と「信頼」を提供し、社員が「誇り」と 「よろこび」を感じられる企業をめざします

私たちカリツー株式会社（旧社名：刈谷通運株式会社）は、1951 年（昭和 26 年）2 月の創業以来、半世紀以上にわたり地域の皆さまとともに歩み、おかげさまで 2025 年（令和 7 年）には創業 74 年を迎えることができました。

しかしながら当社を取り巻く経営環境は、人手不足や物価高に加え、アメリカの追加関税に伴う自動車業界への影響など、不安材料が多く存在しています。

これらの課題を乗り越えるために、企業変革を推進し経営基盤を強化するとともに、さらなる成長をめざして新たな取組みに挑戦し、皆さまに最高の安全・品質とサービスを提供できるよう努めてまいります。

私たちは、企業理念に「我々は社業を通し、良き企業市民としての良識をもって地域社会に貢献する」をかげ、C S R 経営を推進してまいりました。

この度、当社の C S R に関わる取組みについて、2024 年度の活動を中心にまとめましたので、C S R レポートとしてご報告させていただきます。

当社は今後も事業活動を通じた C S R 活動に取組み、ステークホルダーの皆さまのご期待に応えられるよう努力してまいりますので、ご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2025 年 6 月
カリツー株式会社
取締役社長 筒井 重式



カリツー C S Rレポートについて

目 次

カリツー C S Rレポートについて	2
1. 概要	4
2. 安全・品質	6
3. 環境	16
4. 社会	24
5. コーポレートガバナンス	34

カリツー株式会社に係わる全ての皆さまに、当社の C S R（企業の社会的責任）に対する姿勢と取組みについて理解を深めて頂くため、カリツー C S Rレポートを発行しております。

今年で 13 回目となります本レポートでは、2024 年度（2024 年 4 月 1 日～2025 年 3 月 31 日）の活動についてご報告させていただきます。

2024 年度主なトピックス

■ 2024 年問題への対応

2024 年 4 月からトラックドライバーの時間外労働時間の上限規制が適用されたことで、ドライバー不足、輸送能力の低下、輸送コストの増加、などが物流業界全体の課題となっています。

当社では、これらの課題に対し、事前に対応策を検討し準備を進めてきました。

結果、2024 年度については違反者を出すことなく業務に対応することができています。

■ 物資集積拠点に関する協定書を締結

2024 年 6 月、新たに当社と安城市との間で災害協定を締結しました。

2025 年 2 月、西尾市との災害協定内容を拡大し再締結しました。

今後は他の自治体とも締結し、災害発生時の地元自治体への協力支援を行っていきます。

■ 営業拠点の開設等

2024 年 4 月、KLT 新倉庫を開設しました。

2024 年 5 月、カリツー東日本郡山南営業所を開設しました。

2024 年 5 月、名古屋オフィスを移転しました。

2024 年 7 月、高棚デバイスセンターを開設しました。

2024 年 8 月、カリツー九州熊本菊池物流センターを開設しました。

熊本菊池物流センター



安全・品質の向上

労働災害・交通事故・製品事故の防止のため、安全に関する計画を立て実施しています。

品質の向上のため、教育訓練の実施など、力量の向上に取り組んでいます。



○定期的な訓練の実施と定着確認

実際の作業環境を模した訓練道場などで、定期的な訓練に取り組み、IT 端末を活用した現場巡視により定着状況を確認・共有しています。

また、トラック・フォークリフト大会の開催や出場を通して、一人ひとりの力量 UP に努めています。

○職場環境の整備

職場巡視などを通じて、職場環境の問題点を洗い出し、事故防止と働きやすい職場づくりを推進しています。

環境への配慮

脱炭素が可能な車両・設備の導入、燃費向上などに取り組んでいます。



○脱炭素への取り組み

電気自動車や太陽光発電設備など、脱炭素となる機器を活用しています。

○燃費向上に向けた取り組み

省エネ運転などの教育を通じて、燃費向上に取り組んでいます。

社会貢献

地域社会に貢献するため、交通安全教室などを通して、地域の交通事故抑止に努めています。



○地域の交通安全への取り組み

拠点ごとの定期的な交差点での立哨を実施しています。小中学校で開催される交通安全教室へトラックを提供し、地域の交通安全活動に貢献しています。

○社会貢献活動

安城市、西尾市との災害協定の締結、NPO や芸術・スポーツ団体、地域イベントへの協賛等を行っています。

1. 概要

(1) 理念・方針

■ 企業理念

1. 我々は社業を通し、良き企業市民としての良識をもって地域社会に貢献する。
2. 我々は常に新しい価値の創造に努め最高の品質、最高のサービスをもって業界ナンバーワンを目指す。
3. 我々は「企業は人なり」の信念のもとに、人間性を尊重し常に研鑽に励み自由でかつ達な社風づくりに努める。

■ 安全・品質・環境方針

基本方針

1. 我々は、安全の確保が事業経営の根幹であることを深く認識し、全ての業務の安全性向上に努め、無事故、無災害を達成する。
2. 我々は、常に新しい価値の創造に努め最高の品質、最高のサービスをもって業界ナンバーワンを目指す。
3. 我々は、物流を中心とした全ての企業活動において、環境負荷をできるかぎり低減することで社会に貢献する。

■ カリツグループビジョン「Vision2030」



■ 中期計画

- ☐ 安全・品質・環境活動の強化・徹底
社員・顧客・地域に安心・安全を提供し、社会と調和した成長・発展をめざします
- ☐ リソースの確保
持続的成長のために各経営資源を確保します
- ☐ 組織運営力の向上
現場力・運営力の再構築および働きやすくやりがいを感じられる職場づくりを推進します
- ☐ 事業領域の深耕・拡大
自動車部品物流 No.1 を目指すとともにその強みを活かして事業領域を拡大します

■ 2025 年度スローガン

新たな挑戦！ さらなる成長！

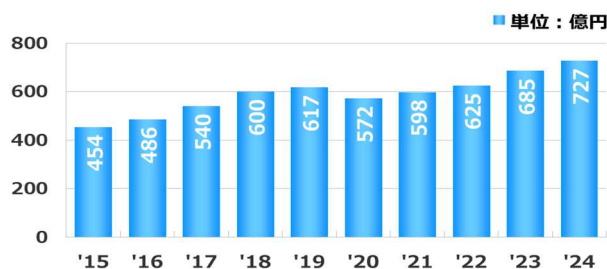
(2) 事業概要 (※1)

会社概要

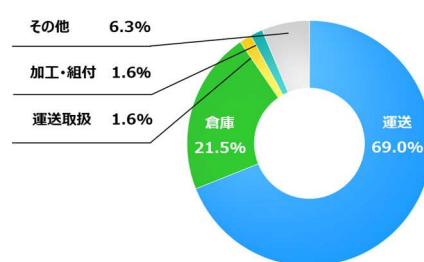
■ 社名	カリツー株式会社		
■ 本社所在地	〒446-8540 愛知県安城市三河安城町 1-4-4 TEL:0566-73-5600 FAX:0566-73-5606		
■ 創業	1951 年 2 月 28 日		
■ 資本金	75,000 千円		
■ 社員数	2,929 名		
■ 車両保有 台数	1,821 台	<内訳>	■ 大型 (5t 車以上) : 833 台 (牽引:57 台 被牽引:38 台) ■ 小型 (5t 車未満) : 205 台 ■ フォークリフト : 783 台
■ 営業種目	■ 貨物自動車運送事業 ■ 倉庫業 ■ 加工組付け業 ■ 作業請負事業 ■ 旅行業 ■ 通関業 ■ 利用運送事業<JR 貨物> ■ 荷造包装業 ■ 自家用自動車管理業 ■ 特定信書便事業 ■ 太陽光発電売電事業 ■ 産業廃棄物収集運搬業 ■ 運送取次事業 ■ 代行納入業 ■ 不動産賃貸業 ■ 貨物軽自動車運送事業 ■ カリツー安全教育研修センター ■ 損害保険代理業		
■ グループ会社	■ 光徳商事株式会社 ■ 千幸開発株式会社 ■ 光徳運輸株式会社 ■ 大和高速運輸株式会社 ■ 刈通オートテクノ株式会社 ■ 日豊高速運輸株式会社		
■ 子会社	■ カリツー東日本株式会社 ■ カリツー北海道株式会社 ■ カリツー九州株式会社		

企業データ

■ 売上高の推移 (単独)



■ 売上高の構成



■ 社員数・車両数の推移



■ 倉庫面積

地域	倉庫面積 (単位㎡)
愛知県内小計	381,504
北海道圏小計	4,755
関東圏小計	24,635
関西圏小計	4,295
中国圏小計	9,236
全社合計	424,425

※1 2025 年 3 月末時点

2. 安全・品質

■ 安全教育研修センターの活用

安全教育研修センター



2021年1月、旧西尾営業所跡地に安全教育研修センターを移転しました。

実際の道路環境を再現したトラック訓練場を新設するとともに、フォークリフトの基本操作から過去のトラブル対策のルール、禁止事項の徹底および多様化する業務に対応できる教育訓練を実技・座学ともに導入しています。安全教育のプロフェッショナルが集結したセンターにて、協力会社を含めたオールカリツーでの安全品質の向上を図っています。

座学



座学・実技訓練の強化

(1) 座学

- ① 大型モニターを使用した研修
- ② 新人教育で基本ルールを研修
- ③ 水平・隣接確認の重要性を重点に研修

棚入れ訓練



(2) 荷主製品・環境特性に特化した訓練

- ① 鉄パレット（油漏れ）の訓練
- ② 長爪の訓練
- ③ 棚入れ訓練

【基本訓練】製品転倒体感訓練



【応用訓練】マルチカメラを用いた訓練



縦列駐車訓練



乗車 KYT 訓練



協力会社 1日間研修



(3) フォークリフト基本訓練

- ① 事故対策のトラップ訓練
- ② 隣接確認姿勢の教育（上下左右）
- ③ 隣接（奥）確認の教育
（見えない箇所の把握方法）
- ④ ローラー投入、取出し訓練
- ⑤ ウォーキー訓練
- ⑥ ハンドリフト訓練
- ⑦ 製品転倒体感訓練（奥隣接）
- ⑧ スロープ訓練
- ⑨ バック搬送訓練
- ⑩ シャッター通過訓練
- ⑪ 時間制限を設けた訓練

(4) フォークリフト応用訓練

- ① マルチカメラを用いた訓練
- ② LED 隣接確認訓練
- ③ トラップ訓練

(5) トラック実技訓練・点検訓練

- ① 交差点進入方法、危険箇所の把握、
徐行、最徐行、一旦停止の教育
- ② 死角の把握、死角を減らすための姿勢、行動教育
- ③ 障害壁を設置した交差点死角訓練
- ④ 接触ポールを設置したバック訓練、縦列駐車訓練
安全な後退方法と後方感覚を養う
- ⑤ オーバーハング・リヤオーバーハング振出・死角訓練
トラックを使用し内輪差・死角等を認識する訓練
- ⑥ 夜間訓練
夜間走行時の視認距離、蒸発現象の訓練
- ⑦ ホイールナットの弛み確認訓練
- ⑧ リアデフの油漏れ確認訓練
- ⑨ 乗車 KYT 訓練

(6) 協力会社 1日間研修

初めて当社業務に携わる協力会社の乗務員には新規雇用者（協力会社）1日間研修として当社業務における基本ルールやフォークリフトの基本操作等を教育し、協力会社を含めたカリツー全体の安全・品質向上に努めています。

■ 安全に関する計画

具体的な計画を立て実行し、継続的に取り組んでいます。

安全に関する計画		教育計画	
運行記録計（解析指導）	毎月	新入乗務職研修	都度
安全推進会議（各部署）	毎月	安全講習会	都度
グループ会議	毎月	事故発生者研修	都度
職長会	毎月	管理監督者研修	年 1 回
事故研修会	発生翌月		
無事故無違反強調月間	年 4 回		
無事故表彰	年 4 回		
トラック運転技能大会	年 1 回		
フォークリフト運転技能大会	年 1 回		
全国交通安全運動参加	年 4 回		

■ 無事故無違反強調月間

交通・製品事故ゼロを達成するため、年 4 回無事故無違反強調月間を設けて、全社を挙げた安全意識付けに取り組んでいます。

月間では、車両への車幕の取付け、事業所の出入り口への立て看板とのぼり旗の設置を行い、社員は「安全宣言」バッジや腕章を着用して、現場パトロールを実施しました。

また、KIT によるパトロールの実施、職制による添乗指導の実施、ドライブレコーダー違反に対する映像確認と指導の徹底、夕方・夜間の交差点立哨パトロールの実施など、様々な事故防止活動が計画・実施されています。

進発式



点呼



現場パトロール



■ 短期・長期無事故表彰

無事故表彰式



毎年、無事故を達成したグループ・社員に対して、短期・長期の無事故表彰を行っています。

短期無事故表彰は、3 ヶ月間無事故・無災害を達成したグループに対し、長期無事故表彰は3年、10年、20年、30年、38年の間継続して無事故だった社員を表彰しています。

これにより、事故抑止目標の達成と社員の相互協力による安全意識の高揚を図っています。

■ カリツー協力会管理者研修会への参加

2024年11月20日、本社厚生棟にてカリツー協力会主催「管理者研修会」に参加しました。

外部よりお招きした講師の方が「国交省による行政監査の実態と対策～事業者の虚偽報告は簡単に見抜かれる～」をテーマに講演され、改めて法令順守の意識を高める機会となりました。

■ カリツーセーフティ・ラリーの開催

物流企業の社員として、社会の模範となる安全運転を実践することを目的に、2024年7月から12月までの間にかけ、愛知県トラック協会主催の「トラック・セーフティ・ラリー（※1）」と連動させた「カリツーセーフティ・ラリー」を開催しました。

全社員が5名1組でチームを結成し、実施期間中の無事故・無違反の達成に向け取り組みました。

結果は達成率90.47%となり、3年連続でチーム達成率90%以上を達成しています。

今後も一人ひとりの取り組みに関する意識を高め、全チームの達成に努めます。

項目	2024 年度
全チーム数	619 チーム
達成チーム数	560 チーム
達成率	90.47%



■ 正しい運転・明るい輸送運動への参加

交通・労働災害事故の防止、年末年始の輸送繁忙期における安全・安心な輸送サービス提供などを目的として、2024年11月から2025年1月にかけて、全日本トラック協会と各県のトラック協会共催の「正しい運転・明るい輸送運動」に参加しました。

各事業所において、「荷役作業時の安全確保の徹底」、「追突事故及び交差点における事故防止の徹底」、「輸送品質・サービスの向上」など、重点実施事項を定めて運動に取り組みました。

※1 一定期間内の無事故・無違反を競い合うことによって、ドライバー、社員の交通安全意識を高め、チーム、事業所、支部内での事故、違反数の減少を図るとともに、愛知県内の交通事故死者数減少を目指す

■全社員のアルコール検知の実施

物流企業の社員として、勤務の内外を問わず飲酒による事故や検挙者を絶対に発生させないように、乗務員のみならず全社員が出退勤時にアルコール検知を実施しています。

本社を含む全事業所にアルコール検知器を配備し、遠隔地で乗務を開始・終了する場合には、携帯型のアルコール検知器を使用して記録しています。

■サイドバンパーの導入

サイドバンパー



大型トラック全車両助手席側の 1 軸と 2 軸の間に、サイドバンパーを導入しています。

車体横に取付けることにより、歩行者や自転車の進入を防止します。当社と整備会社が共同で開発した特別仕様で、全ての対象車に取り付けています。

サイドバンパーによる進入予防措置とともに、道路交通法の順守を徹底するよう、教育を行っています。

■電子点呼システムの活用

遠隔点呼



当社では、日々の点呼において、自社で構築した電子点呼システムを活用しています。

事故やトラブルの展開や再発防止に向けた注意事項を、パソコンを使用した点呼時に各乗務員に確認させるなど、運行における法順守の徹底と乗務員の注意意識向上に向けて取組んでいます。

2024 年 10 月、カリツとカリツ北海道間で遠隔点呼を導入しました。人手不足などの点呼業務の負担軽減につながりました。

■フォークリフト用ドラレコの導入

ドラレコ映像による操作確認



製品事故を防止するため、教育用のフォークリフトにドライブレコーダーを導入しています。

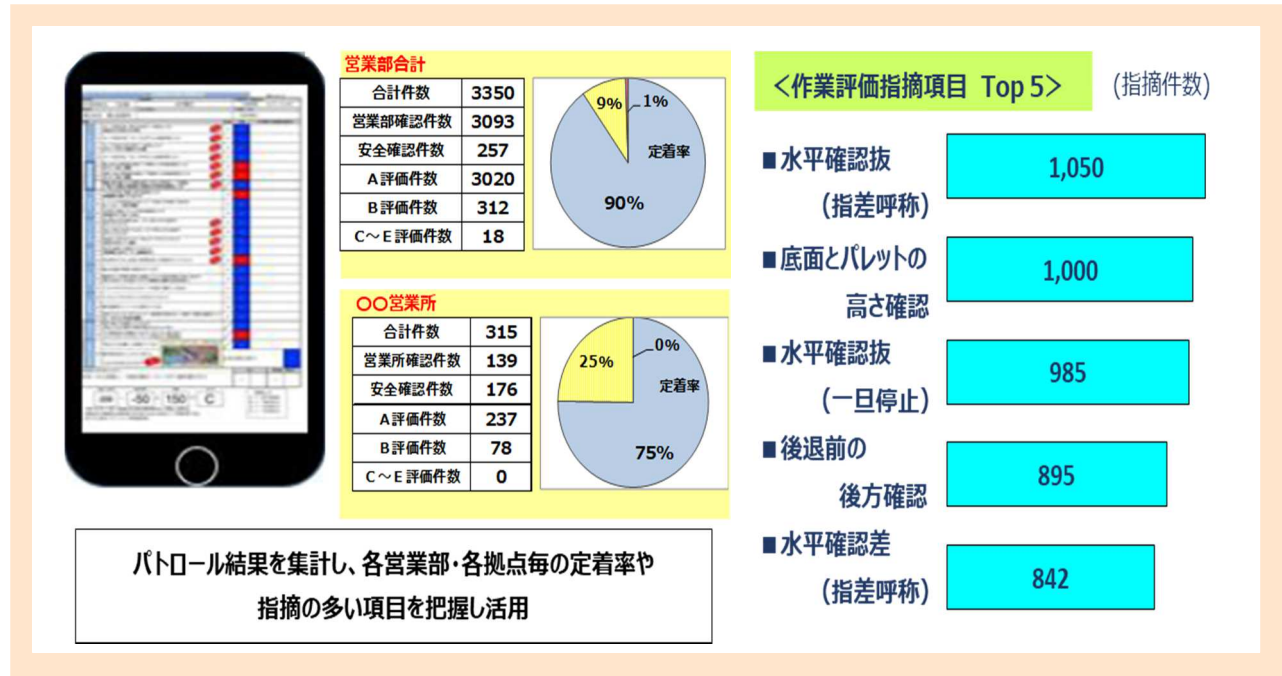
研修後、全員で映像を振り返り、危険な操作箇所を確認できる取り組みを実施しています。

適切な操作技術を身につけることで、事故防止につながります。

■ IT を駆使したパトロールへの取り組み

2021 年 2 月より、KIT（カリツーIT パトロールシステム）を導入し、現在ではグループ会社にも拡大しました。
また、2024 年 1 月、「物流作業評価支援システム」という名称で、特許を取得しました。

当社では、現場作業の安全品質向上のため、IT 端末を活用した現場巡視を行い、指差呼称などの実施状況について評価結果を社内で共有し、事故抑止につなげています。



■ ながらスマホ防止アプリの導入

2022 年 4 月より、ながらスマホ防止アプリを導入しています。

従来より、乗務中のながらスマホを防止するため、運転中は携帯電話を指定の袋に入れていました。
さらに安全を強化するため、カリツーオリジナルアプリを開発・導入し、既存ルールに違反した場合、それを検知し
管理者へ即時通達する仕組みを構築しました。

個人スマホへのアプリの導入には乗務員の合意が必要であり、現在 98%の乗務員の合意を得て稼働中です。
また変化するスマホ OS への追従、特に Android へのインストール時の警告表示が課題となっています。



■教育 DVD の展開

カリッーだより



社員への教育材料として、SD 情報「セーフティ・ドライブ（安全運転）情報」と、社内広報として「カリッーだより」を自社内スタジオで編集、展開しています。

また、会社行事に上映するウエルカムビデオの作成や社史資料の映像記録も行っています。

■競技会への出場

当社では、専門知識の習得、運転技能及び点検技術の研鑽、交通安全に関する意識の向上を図ることを目的として、競技会へ積極的に参加しています。

開催日	競技会名	参加人数	入賞者（★愛知県代表として全国大会に出場）	
6/8	愛知県トラック協会 西三支部刈谷部会 第 22 回フォークリフト 運転技能競技会	3 名	優勝：	豊田西物流センター 名取選手
			3 位：	西尾東物流センター 加藤(荘)選手
			4 位：	西尾東物流センター 加藤(裕)選手
6/22	第 45 回愛知県フォークリフト 運転競技大会	6 名	優勝：	東刈谷営業所 岡田選手★
			2 位：	豊田西物流センター 名取選手
			3 位：	東刈谷営業所 福岡選手
			4 位：	刈谷北営業所 西川選手
9/8	第 56 回愛知県トラック協会 トラックドライバーコンテスト	5 名	大型部門優勝：	岡崎営業所 遠藤選手
9/28・ 29	第 39 回全国フォークリフト 運転競技大会	1 名	－	東刈谷営業所 岡田選手
11/2	カリッー・カリッー協力会共催 ドラコン・フォークリフト 合同大会	58 名	－	－
12/1	第 13 回愛ト協 省エネ走行競技会	2 名	大型部門準優勝：	刈谷北営業所 久野選手

ドラコン・フォークリフト合同大会



フォークリフト運転競技大会



トラックドライバーコンテスト



■職場環境の整備

社員が安全に働ける職場環境の整備へ向け、各事業所に安全衛生委員会を設置し、定期的に職場を巡視しています。

中央安全衛生委員会では、各職場での安全衛生に対する意見を取り上げ、労働災害防止対策の改善を行っています。また、災害発生時には、臨時委員会を開催し、対策改善提案・対策のフォローを行っています。

□労働災害の分析・水平展開

労働災害防止のため、発生した労働災害については、要因分析と発生原因の特定を行い、再発防止対策、是正処置を実施しています。

また、一連の労働災害情報をデータベースとして蓄積するとともに、水平展開をするなど社内で共有しています。

フォークリフト用ミストファン



□フォークリフト用ミストファンの導入

熱中症対策の一環として、豊田西物流センターではフォークリフト用ミストファンを導入しています。

フォークリフトに小型のミストファンを取り付けることで、気化熱効果により、体の表面温度を下げて熱中症を予防しています。

熱中症対策用品展示会



□熱中症対策用品展示会の開催

2024年6月、熱中症対策用品の展示会が開催されました。

出展 7 社による冷却ファン、スポットクーラー、ファン付きベストなど、熱中症対策用品が紹介されました。

□疲労軽減マットの導入

作業時の立ち仕事の疲労軽減のために、疲労軽減マットを導入しています。足腰の負担が減り、腰痛予防に役立っています。

フォークリフトの足元照明



□フォークリフトの足元照明

労災事故防止のため、フォークリフトの足元を照らす LED 照明を取り付けました。

降車時の足元を明るく照らし、転倒防止に役立っています。

安全掲示板



□安全掲示板の設置

各拠点に安全掲示板を設置しています。

無災害継続日数を「見える化」することで、社員への事故防止に対する意識付けを行っています。

□安心・安全な職場づくり

安全・品質向上の取組みの一環として、働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

2023年3月より、一部のトラックへ荷台への昇降時の転落防止のため、手すりと足掛けを開発し取付けました。昇降時の安全対策と、足腰への負担軽減になりました。

また、西尾東物流センターではAGV（無人搬送車）とハンディーハンド（グローブ式パワーアシスト荷役物運搬機）を導入しており、運搬作業時の負担を減らすことができました。

AGVは高棚デバイスセンターにも導入しています。

2024年11月、東端物流センターの倉庫にプロジェクションピッキングを導入しました。

ピッキングデータを基に指定ロケを照射するため、作業指示書の内容確認は不要となり、属人化の廃止と新人教育の工数軽減になります。

高棚デバイスセンター AGV



東端物流センター プロジェクションピッキング



二つ星認証マーク



□働きやすい職場認証制度への参加

国土交通省・厚生労働省が進めている、働きやすい職場認証制度の二つ星認証を取得しています。

この制度は、自動車運送事業者の運転者の労働条件や労働環境を第三者機関が評価・認証する制度です。

職場環境改善に向けた各事業者の取組みを「見える化」することで、求職者のイメージ刷新を図り、求職者の運転者への就職を促進する職場環境を整備し、社員にとって働きやすい職場を作ります。

ホワイト物流推進運動



□ホワイト物流推進運動への参加

国土交通省・経済産業省・農林水産省が進めるホワイト物流推進運動の趣旨に賛同し、自主行動宣言を提出しています。

この運動は、トラック輸送の生産性の向上・物流の効率化と、女性や60代以上の運転者等も働きやすい「ホワイト」な労働環境の実現を目指した運動です。

社会的な共通課題の解決に向けて、関係取引先やパートナーとともに、物流の生産性と効率化を迫及し、多様な人材が活躍できるよりホワイトな労働環境の実現を目指しています。

■ 運輸安全目標と結果

項目	2024 年度目標	2024 年度結果	2025 年度目標
重大事故 (※1)	0 件	0 件	0 件
輸送の安全に関する投資額	274 百万円	265 百万円	326 百万円

■ 交通事故抑止目標と結果

項目	2024 年度目標	2024 年度結果	2025 年度目標
自責交通事故 (※2)	2 件以下	5 件	2 件以下

■ 製品事故等抑止目標と結果

項目	2024 年度目標	2024 年度結果	2025 年度目標
製品事故	43 件以下	41 件	41 件以下

■ 労働災害抑止目標と結果

項目	2024 年度目標	2024 年度結果	2025 年度目標
重大労働災害 (※3)	0 件	0 件	0 件
重大労働災害以外 (※4)	0 件以下	3 件	0 件以下

※1 国土交通省自動車事故報告規則に定める事故 ①転覆・転落・火災・踏切・死傷 ②危険物の飛散漏洩 ③健康障がい ④車両故障等

※2 過失割合 30%超の交通事故

※3 死亡災害・後遺障害・休業 6 ヶ月以上

※4 休業 4 日以上 6 ヶ月未満

3. 環境

(1) カーボンニュートラル推進組織

カーボンニュートラルの専門部署を設立しています。

持続可能な社会に向けて、CO₂排出量の削減を目標にカーボンニュートラルを推進します。

カーボンニュートラル方針



(2) 燃費向上に向けた取組み

■ 燃費向上目標と結果

項目	2024 年度目標	2024 年度結果目標比	2025 年度目標
全社・全車格平均燃費	0.14%向上	99.04%	0.13%向上

■ 省エネ運転の実践

省エネ運転は、燃料の節約やCO₂の排出抑制だけでなく、穏やかなやさしい運転をすることにより、安全運転の向上にもつながります。

■ 各部署の燃費管理責任者による活動

各部署の燃費向上活動の中心として、燃費管理責任者（全25名）を選び、自部署の燃費管理、燃費向上の取組みなど乗務員への教育・指導を行い目標達成に向け取り組んでいます。

■ 高速型ディファレンシャルギアの装着（※1）

長距離用トラックの一部車型に高速型ディファレンシャルギアの装着をしています。
ギアによりエンジン回転数が下がり、燃料消費量を抑え燃費向上を図っています。

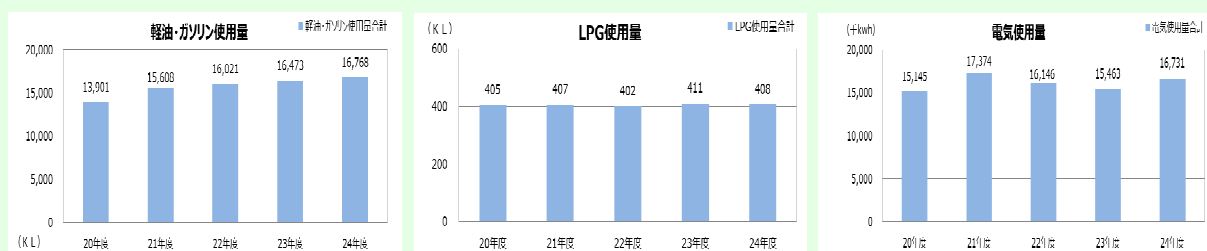
※1 高速走行時のエンジン回転数を下げて走行できる機器

(3) エネルギー使用量とCO₂排出量 (※1)

■エネルギー使用量

エネルギー源	単位	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
軽油	KL	13,686	15,376	15,784	16,243	16,529
ガソリン	KL	215	232	237	230	239
LPG (※2)	t	405	407	402	411	408
都市ガス	千m ³	135	123	108	136	0.9
電気	千 kwh	15,145	17,374	16,146	15,463	16,731

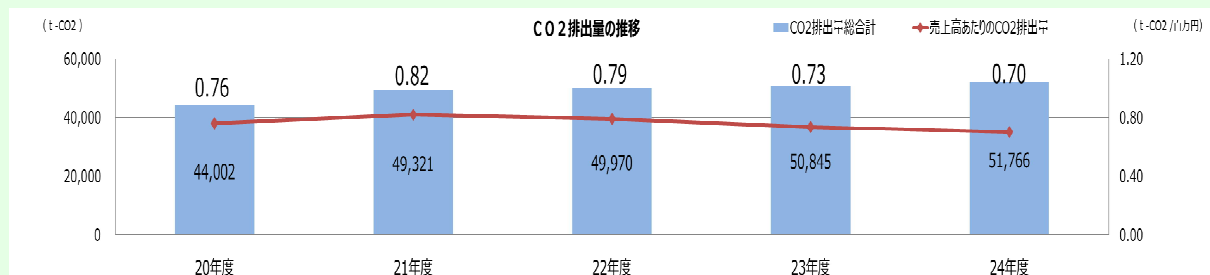
CO₂ 排出量の推移



■CO₂ 排出量 (t-CO₂)

エネルギー源	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
軽油	35,378	39,747	40,801	41,987	42,645
ガソリン	499	539	551	534	554
LPG	1,215	1,221	1,206	1,233	1,224
都市ガス	303	276	242	305	2
電気	6,607	7,538	7,170	6,786	7,341
合計	44,002	49,321	49,970	50,845	51,766

CO₂ 排出量の推移



※1 カリツ子会社 3 社の数値を含む

※2 LPG は 2021 年度よりカリツ子会社 3 社の数値を含む

(4) エネルギー使用量・CO₂ 排出量削減に向けた取組み

■ モーダルシフトの推進

環境負荷低減のため、トラックを使用した貨物輸送を、環境負荷の小さい鉄道や船舶の利用へと転換するモーダルシフトを推進しています。

□ JR コンテナ輸送

環境に優しい効率的な長距離輸送を実施しています。

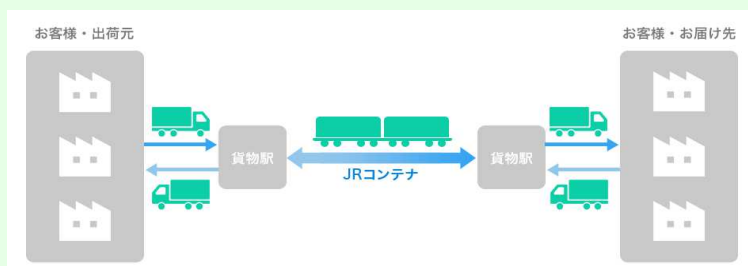
輸送には主に 12ft コンテナを使用し、集荷・配達を行っています。

出荷元の最寄り駅までコンテナを積載したトラックで集荷し、駅から駅までは列車で輸送します。

お届け先の最寄り駅からはコンテナを積載したトラックで配達しますが、中継地で車両を載せ替え、集配先の乗り入れ条件に合わせた車種での対応も可能です。

鉄道輸送は 10 t トラック 65 台分を 1 名の運転手にて運搬が可能なため、今後懸念されているドライバー不足や環境に配慮した輸送モードになります。

JR コンテナ輸送



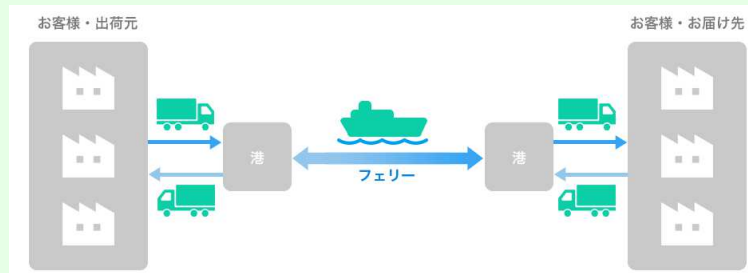
□ フェリー輸送

陸海一貫輸送システムの長距離輸送を実施しています。

長距離輸送の際は、トレーラーシャーシだけをフェリーに搭載させ無人で航走します。

到着地点で別のトラックが荷受けするという陸海一貫輸送システムを構築し、長距離輸送の効率化と、CO₂ 削減に貢献する環境に優しい輸送を実現します。

フェリー輸送



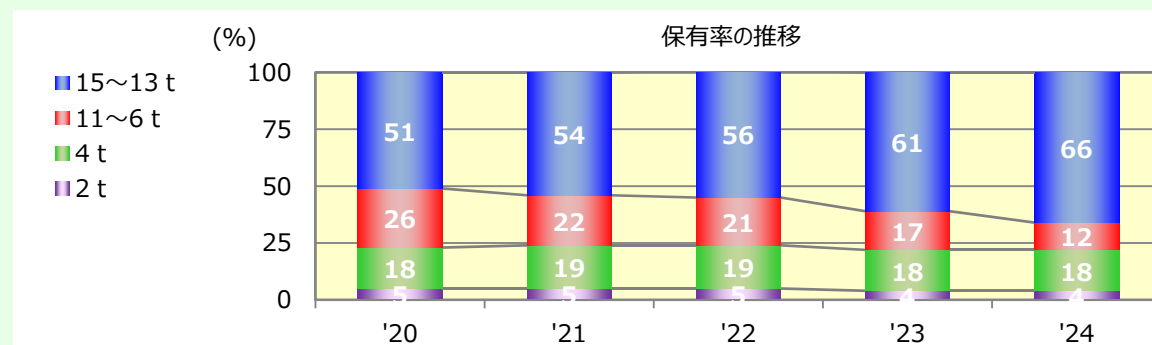
■ 低公害車の導入

環境負荷の低減を目的に、低公害車の導入を進め、保有率の向上に取り組んでいます。

項目	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度	2024 年度
低公害車の台数 (※1)	1,096 台	1,030 台	1,056 台	1,099 台	1,107 台
低公害車以外の台数 (※2)	30 台	31 台	28 台	28 台	34 台
低公害車の保有率	97.3%	97.1%	97.4%	97.5%	97.0%

■ グリーン物流の推進

輸送能力の高い大型車両を積極的に導入し、混載輸送を促進することで、輸送回数の削減と輸送効率の向上に努めています。



□ 21m フルトレーラーの導入

当社では、21m フルトレーラーを導入しています。

大型トラック 2 台相当分の荷量を積載可能なため、輸送回数の削減につながり、ドライバー不足への対応や CO₂排出量削減効果が期待できます。

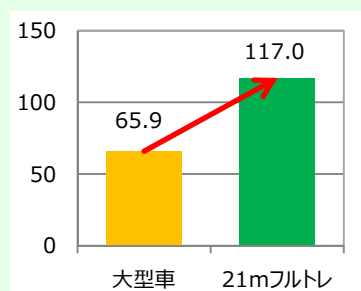
2025 年 3 月末時点で 13 セット導入しており、2026 年 3 月末までに合計 29 セット保有予定です。

今後もフルトレーラーを活用した輸送を拡大していきます。

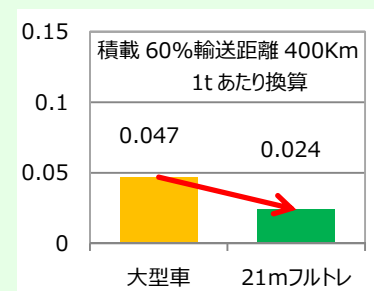
21m フルトレーラー



荷台容積 (m³)



CO₂ 排出量 (t-CO₂)



※1 低公害車は営業車両のみ対象

大気汚染物質（窒素酸化物や一酸化炭素、二酸化炭素など）の排出が少なく、環境への負荷が少ない自動車
愛知県の「県民の生活環境の保全等に関する条例」に定める低公害車の定義を採用

※2 低公害車以外の車は自家用・軽・バス・一部の 2t 車

環境への負荷をできるだけ少なくするために、グリーン購入（環境に配慮した製品の選択）を推進しています。「グリーン購入管理指示書」を制定し、物品調達にあたっては、その必要性をよく考えた上で、価格・機能・品質だけでなく、環境への負荷ができるだけ少ないものを選択して購入するよう努めています。

□ クールハイブリッドトラック（15 t）の導入

電動駆動式の冷凍機を搭載したクールハイブリッドトラック（15 t）を導入しました。
燃費性能の向上により、大型トラックの課題である CO₂排出量低減効果が期待されています。

□ 燃料電池（FC）の導入検討

カーボンニュートラル実現に貢献するため、フォークリフトへの燃料電池（FC）の導入を検討しています。
温暖化防止に向けた CO₂排出量の削減を目指し、トラックに限らずフォークリフトにおいても、水素活用の促進を目指した取組みを強化していきます。

b Z 4 X・プリウス P H V



□ 燃料電池自動車の導入

水素と酸素の化学反応により発電した電気でモーターを動かし、排気ガス等を排出しない車です。
当社では、本社に M I R A I を導入しています。

□ プラグインハイブリッド車の導入

コンセントから差込プラグを用いて直接バッテリーに充電できるハイブリッド車です。
本社内に充電設備を設置しプリウス P H V を導入しています。

フォロフライ



□ 電気自動車の導入

充電した電気でモーターを動かして走る車です。
2025 年 1 月、本社にフォロフライを導入しました。
i - M i E V、リーフ、b Z 4 X も導入しています。
また、本社と一部の事業所に V 2 H（充放電器）を設置したことで、停電時に電気自動車へ貯めた電気を建物で使用できるようになりました。

再生タイヤ（リトレッドタイヤ）



□再生タイヤ（リトレッドタイヤ）の導入

走行により摩耗したタイヤの溝の部分トレッドゴム（路面と接する部分）を新しいゴムに交換し再利用するリトレッドタイヤを使用しています。

使用後のタイヤを再利用することで、資源の有効利用によるCO₂排出量の削減が期待できます。

また、低床4軸車の後輪に、再生回数が2回目のリトレッドタイヤを装着できるよう取組んでいます。

リチウムイオンバッテリー



□リチウムイオンバッテリーの導入

フォークリフトリチウムイオンバッテリーを導入しています。

鉛バッテリーの4倍の速さで高速充電を行い、寿命が約3倍あります。充電効率も20～25%向上することで、CO₂排出量の削減につながっています。

スぺアバッテリーとバッテリーの積み替え作業や補水作業も不要となるため、作業負担が減りました。

2025年3月末時点で69台導入しており、2026年3月末までに合計94台保有予定です。

□リフトバッテリーの再利用

当社では、性能が低下したバッテリーのセルの入れ替え修理を実施し再利用しています。

再利用することで、資源の有効利用によるCO₂排出量の削減効果につながっています。

□省エネディーゼルエンジンオイルの活用

当社では、省エネディーゼルエンジンオイルを活用しています。

燃費向上効果が高く、オイル寿命が長いので、コストとCO₂排出量の削減効果につながっています。

□省エネ型照明への転換を推進

従来型照明からLED照明へ切換えを推進しています。

倉庫内や駐車場などの光源を切換えました。

従来の蛍光灯と比較すると、消費電力量を約35%削減でき長寿命です。

高い省エネ効果が見込まれる機器への転換を積極的に進めることで、環境負荷低減に取り組んでいます。

太陽光発電



□太陽光発電の設置

当社では、事業所の屋上等に太陽光発電パネルを設置し、発電をしています。

現在13拠点に設置しており、再生可能エネルギーの導入拡大に貢献しています。

今後、他の拠点にも設置していく予定です。

CO₂フリー電気の導入

地球にやさしく、未来をあかるく。



□CO₂フリー電気の導入

西尾東物流センターと小垣江物流センターにCO₂フリー電気を導入しています。

CO₂フリー電気は、水力発電などの再エネ電源にて発電したCO₂を排出しない電気です。

CO₂フリー電気を購入したことで、年間のCO₂排出量削減効果を見込んでいます。

今後も、環境に配慮した電気の利用を促進していきます。

(5) その他の環境保全活動

■ 油脂漏れ緊急対応訓練

油脂漏れ緊急対応訓練



トラックからの油脂（燃料・オイル等）の漏れを未然に防ぐため、乗務員が毎日行う日常点検にて確認を徹底しています。

万一発生した場合に、適切かつ迅速に対応できるよう、あらかじめ手順を決め、毎年油脂漏れ緊急対応訓練を実施しています。

全車両に、油脂漏れ対応のための備品を常備しています。

■ 廃棄物に係わる取組み

日々の事業活動で排出される廃棄物の処理については、分別を徹底し、再生可能なものはリサイクルを進め、排出量の削減に取り組んでいます。

□「リサイクル部品」の活用

再利用可能なデフレクター、三角停止版などを回収し「リサイクル部品」として社内で活用しています。

□再資源化の推進

廃棄物として処理を委託していた廃プラスチック類（荷受品の固縛のために使用したラップ等）や、廃油・ダンボール・古紙などの分別活動により、リサイクルを推進しています。

(6) 環境会計 (※1)

当社では、環境会計を導入し、環境保全コスト（投資・費用）を管理することで、効果的な環境配慮の取組みを推進しています。(※2)

■ 環境保全コスト (※3)

(千円)				
コストの分類		主な取組みの内容	投資額 (※4)	費用額 (※5)
事業 エリア内	公害防止	低公害車（トラック）、 浄化槽の維持管理費等	161,586	706,299
	地球環境保全	バッテリーリフト、 エコタイヤ等	86,959	258,887
	資源循環	廃棄物処理費用、 高性能オイル等	－	78,454
上・下流		排水補償金等	－	220
管理活動		ISO 審査、CSR レポート 発行等	－	36,240
研究開発		物流改善スタッフ費用等	－	141,628
社会活動		業界団体会費、募金等	－	4,581
環境損傷対応		土壌汚染の修復費用等	－	－
合計			248,546	1,226,312

■ 環境保全効果

環境パフォーマンス指標（単位）	2023 年度
産業廃棄物排出量（t）	3,661
水使用量（m ³ ）	47,268

※1 事業活動における環境保全コストとその効果を明確にし、可能な限り定量的に測定・伝達するしくみ

※2 データは 2023 年度現在。2024 年度は集計中

※3 環境負荷の発生防止、抑制または回避、影響の除去、発生した被害のまたはこれらに資する取組みのための投資額及び費用額
データはカリツ分のみ

※4 対象期間における環境保全を目的とした支出額で、その効果が数期にわたって持続し、その期間に費用化されていくもの
（減価償却資産の当期取得額）

※5 環境保全を目的とした財・サービスの費消によって発生する費用または損失

4. 社会

(1) 社会との係わり

■ 災害時における対応

安城市との災害協定締結式



□ 物資集積拠点に関する協定書を締結

2024 年 6 月、新たに当社と安城市との間で災害協定を締結しました。この協定は、市内において地震その他の災害により被害が発生する場合に、当社の一部の施設を物資集積拠点や臨時避難所として提供するものです。

当社は西尾市と災害時における物資集積拠点に関する協定書を締結しています。

2025 年 2 月、西尾市との災害協定内容を拡大し再締結しました。今後は他の自治体とも締結し、災害発生時の地元自治体への協力支援を行っていきます。

□ 緊急時における軽油供給対応

全日本トラック協会に対して、震災等の災害発生時、優先的な軽油供給の要請があった場合、速やかに対応することを誓約しています（対象は一部の施設）。

■ 地域未来牽引企業（※1）

当社は経済産業省より、地域牽引企業の担い手、及び担い手の候補となる地域の中核企業として、地域未来牽引企業に選定されました。これからも事業を通じて、地域経済の発展に貢献していきます。

■ 交通安全立ち番

各事業所では、交通安全活動の推進に向け独自に、または地域や同業他社と連携して、定期的に交通安全の立ち番や交通安全パトロールを行っています。

■ 職場体験の受入

職場体験



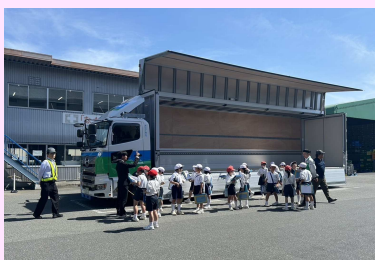
毎年、電子デバイスセンターなど一部の事業所において、学生を対象とした「職場体験」に協力し、地域貢献に務めています。

倉庫内の在庫管理・入庫作業や検品作業などの体験を通して、物流業への理解を深めて頂きました。

※1 地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長を力強く牽引する事業を更に積極的に展開すること、または、今後取組むことが期待される企業

■ 企業訪問の受入れ

企業訪問



2024年5月、広島西条営業所にて、東西条小学校の3年生（1クラス）による企業訪問を受入れました。

当日は、仕事内容の説明を行い、子ども達に実際にトラックに乗車して貰い、車両の構造について体験して頂きました。

■ イベントの開催

フォークリフト乗車体験



2024年6月、カリツー東日本郡山営業所にて、地元の幼児発達支援事業所様を招いて、イベントを開催しました。

当日は、子ども達に実際にトラックやリフトに乗車して貰い、車両の構造について体験して頂きました。

今後も積極的な受入れを行いたいと考えています。

■ 交通安全教室への車両提供

交通安全教室



2024年10月、安城市アンフォーレで開催された、NPO法人安城まちの学校主催の交通安全教室において、当社からもトラックを提供し役立てて頂きました。当日は、子供たちを対象とした、運転席への乗車体験による死角の説明などを行いました。

また、毎年行われているトラック協会主催の交通安全教室においても、トラックを提供しています。

今後も社会貢献活動を継続して行っていきます。

■ SDGs 等の取組み

あんじょう SDGs 共創パートナー制度



□ あんじょう SDGs 共創パートナー制度

当社は、安城市の「あんじょう SDGs 共創パートナー制度」に登録しています。

「あんじょう SDGs 共創パートナー制度」は、持続可能なまちづくりと、SDGs に取組む企業・団体等の裾野を広げることを目的とした制度です。

今後も安城市と連帯して、SDGs の取組みを推進していきます。

共創パートナーの取材



□共創パートナーの取材受入れ

2024年8月、「あんじょうSDGs共創パートナー制度」の取組みの一環として、安城市内の高校生による取材を受けました。

取材では、カーボンニュートラルや交通安全への取組みについて質問がありました。

今後もSDGsの取組みを行っていきます。

児童養護施設への寄贈



□児童養護施設への寄贈

2024年12月23日、安城市の社会福祉法人聖清会児童養護施設「なかよしこよし」と、碧南市の社会福祉法人長寿会児童養護施設「オリーブ」に、ギフトカードとお菓子詰め合わせをクリスマスプレゼントとして寄贈しました。

今回は、当社グループ会社である刈通オートテクノ殿と日豊高速運輸殿、光徳運輸殿にも協賛いただきました。

子ども達が元気で明るい笑顔になれるよう、今後も、活動を継続して行っていきます。

子ども食堂への寄付



□子ども食堂への寄付

2022年より子ども食堂へおこめ券や花火セット等の寄付を行っています。

子ども食堂とは、子どもや地域の人に、無料または低額で食事を提供する活動です。

支援を必要とされている方に、少しでも協力したいと考え寄付を行いました。今後も、活動を継続して行っていきます。

セカンドハーベスト名古屋への寄付



□セカンドハーベスト名古屋への寄付

SDGsの取組みの一環として、セカンドハーベスト名古屋へ年2回防災備蓄品の入替えの際に、非常食の一部を寄付しています。

セカンドハーベストでは、寄付された食品を各種福祉団体などへ提供するフードバンク活動を行っています。

今後も、活動を継続して行っていきます。

小学校へベルマーク寄付



□ベルマーク寄付

2013年よりベルマークの寄付を行っています。

これまで愛知県の他に、事業所を置く広島県東広島市と福岡県宮若市等の小学校等とベルマーク財団、オイスカへ寄付をしました。

今後もベルマーク寄贈を通して、地域社会貢献活動を行っていきます。

□ 植樹活動や農業支援への寄付

毎年環境保全活動の一環として、公益財団法人オイスカに寄付を行っています。
オイスカは、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開する国際 NGO です。
今後も寄付を通して、植林活動や農業支援に協力していきます。

□ 協賛・賛助会員・寄付

当社は社会貢献などの事業に賛同し、協賛を行っています。下記はその一例です。

分野	団体名等
教育支援	朝日小学生新聞（朝日写真ニュース社）
社会福祉	特定非営利活動法人安城まちの学校、NPO 法人パンドラの会
	更生保護法人愛知県更生保護協会
	特定非営利活動法人アジア車いす交流センター
	公益社団法人被害者サポートセンターあいち
	セカンドハーベスト名古屋
国際交流	公益財団法人オイスカ
人道支援	日本赤十字社 令和 6 年能登半島地震義援金
芸術	名古屋フィルハーモニー交響楽団、安城市交響楽団
スポーツ	名古屋グランパス後援会事務局、三河ベイフットボールクラブ株式会社、三菱自動車水島 FC、キッズサッカーフェスタ 2025
伝統文化	安城七夕まつり協賛会・装飾協賛、安城三河万歳後援会

□ SDGs 取組みの一例

当社は SDGs の取組みに賛同し、様々な活動を行っています。下記はその一例です。

項目
日本赤十字社寄付機能付自動販売機の設置
ホンデリングプロジェクト
ベルマーク/書き損じハガキの回収/使用済みトナーカートリッジの回収
【環境省】Fun To Share "COOL CHOICE" の賛同
節水エコバルブ設置

■ 社外からの表彰等

2024 年度における、社外からの表彰実績等の一部は下記の通りです。

賞機関名	表彰名	受賞者数
愛知県高速道路交通安全協議会長	優良運転者表彰	1 名
一般社団法人愛知県トラック協会 西三支部 安城部会	優良運行管理者表彰	1 名
	優良運転者表彰 20 年	2 名
	優良運転者表彰 10 年	1 名
	優良運転者表彰 5 年	1 名
一般社団法人愛知県トラック協会 西三支部 刈谷部会	優良運転者表彰 20 年	1 名
	優良運転者表彰 10 年	1 名
	優良運転者表彰 5 年	1 名
刈谷自家用自動車組合	交通安全功労者表彰	1 名
	優良自家用自動車運転者表彰	4 名
合計		14 名

安城警察署より感謝状を拝受



□ 安城警察署より感謝状を拝受

2025 年 1 月、安城警察署より、交通安全への取組みについて感謝状を頂きました。当社では、地域の小学校での交通安全教室への参加や、全社員への安全教育や街中での立哨活動、交通安全に関するポスターの掲示などを積極的に行っています。

今後も、地域に根差した物流企業として交通安全を第一に掲げ、地域社会に貢献していきます。

(2) お客様との係わり

■ 海外事業の拡大

□ 通関

貿易実務のエキスパートとして輸出入通関のみならず、関係書類の作成、税関検査立会い等、通関に関わる全ての業務を正確かつ迅速に提供します。現在、通関業に係る AEO 取得に向けて取組んでいます。

□ 保税蔵置場

電子デバイスセンターB 棟の一面において、保税蔵置場の許可を取得し、日本から外国に輸出する貨物、あるいは国内に輸入する貨物に必要な税関手続の間、適切に貨物の保管・管理を行っています。

□ 海外ネットワーク

タイのチョンブリー県内に、倉庫業を担う KLT（カリツーロジスティクスタイランド）と輸送業を担う KTT（カリツーートランスポートタイランド）があり、倉庫と輸送の複合サービスを提供しています。

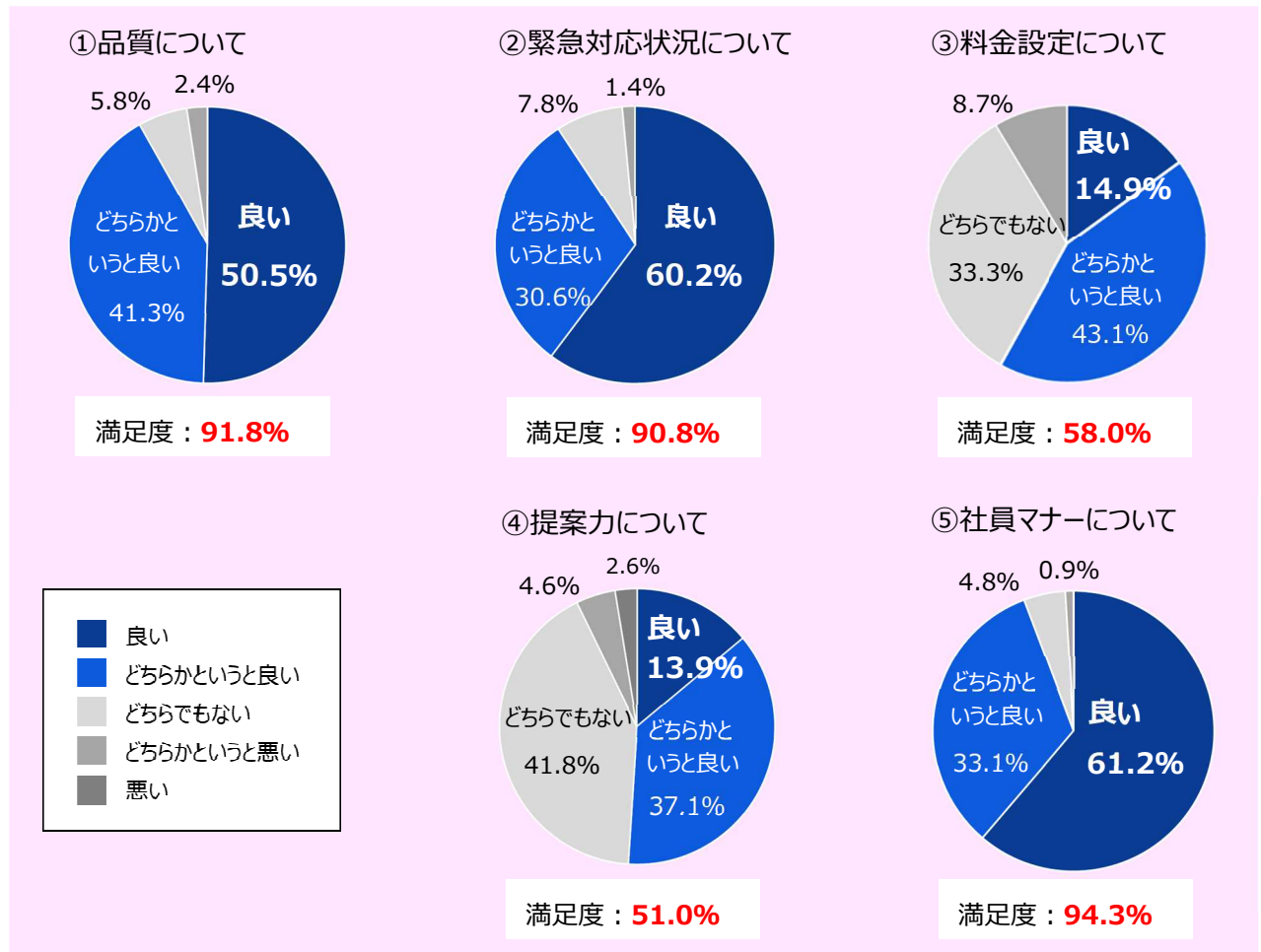
2024 年 4 月、タイ国内最大級の工業団地アマタシティ・チョンブリー内に自社倉庫を開設しました。

■ C S アンケート（お客様満足度）調査結果について

当社では、お客様へ提供する物流サービス向上を目的として、2 年に 1 度 C S アンケートをお願いしており、2024 年度には以下の回答を頂きました。

今後も定期的に C S アンケートを行い、頂いた意見を業務活動に活かし、お客様満足度の向上に努めます。

□ アンケート結果



その他、「当社を選択して頂いた理由」「物流業界を取り巻く環境の変化の中で、当社に期待する事」を回答頂きました。

□ 主なご意見・要望

お客様に対するホスピタリティにいつも感心しており、見習いたい
イレギュラー対応では営業所に助けていただき、感謝している
更なる効率的な物流をご提案頂きたい
定期的に困り事の共有等、コミュニケーションが取れる場があると良い
今後の CO₂削減等、SDGs への対応プランが欲しい

□ アンケートの結果を受けて

当社では C S アンケートの結果を真摯に受け止め、お客様からより一層信頼頂けるよう、社員一同尽力させて頂きます。アンケートにご協力頂きました皆様には、改めて御礼申し上げます。

(3) 社員との係わり

■人材育成

□教育・研修制度

社員の能力向上のため、各種教育・研修を体系的に行っています。

教育・研修	内容
階層別研修（職員）	昇格者研修、年次研修（2年目・3年目・4年目）、中堅総合職研修、新入社員研修、メンタルヘルスなど
階層別研修（現業員）	昇格者研修、年次研修（2年目・4年目）、新入社員研修、職長研修、メンタルヘルスなど
キャリア研修	キャリア振り返り、自己理解の実践など
目的別教育	物流大学校講座、物流技術管理士講座、オンライン英会話、通関士養成講座、テーマ別オンライン研修など

新入社員研修



社内研修



新任ブロック長研修



□ブロック長育成活動

現場の第一線監督者（新任ブロック長対象）を主体とした現業員に、「安全・品質・生産性」の向上を目的として、1ヶ月に亘り座学と現場実習を実施しています。

座学では、TPS（トヨタ生産方式）の考え方を基とした習得を行い、現場実習では、「現場からの学び」を題材とし、現場に寄り添った教育による実務習得を実践しています。

また、研修2年経過後、改善意識の呼び起こしと仲間意識の醸成による組織力の向上を狙いとして、マインド向上活動（遠方営業所で2泊3日の改善実践活動）を実施しています。

今までの経験や学んだ事を活用して議論、共有することで、マインド（気持ち）に変化（刺激）を持たせ改善の活性化を図っています。

改善マインド向上活動 役員報告



トヨタ生産方式自主研究会の職場研鑽会



□トヨタ生産方式自主研究会の職場研鑽会

トヨタ生産方式自主研究会の活動拠点となった職場で、研鑽会を開催しています。

職位を問わず「改善職場関係者の活躍・考え方・進め方」などを現地で説明する事で、職場改善の活動活性化に向けた横展開を、継続して取組んでいます。

からくり展示会



□からくり展示会の開催

「見て」「触れて」「体感」できるからくり展示会を開催しました。

作業負担に軽減につながる作業に、からくりを組み入れた道具を展示して改善意識の向上につなげています。

今後も継続して展示し、からくりの浸透を図っています。

□取得資格

特定の資格取得・受講に対して、社員の申請に基づき一定の補助を行っています。下記はその一例です。

内容
運行管理者・通関士・国内旅行業務取扱管理者・衛生管理者（第一種）・安全管理者・
防火管理者（甲種）・危険物取扱者（乙種第4類）・はい作業主任者・積卸し作業指揮者・
床上操作式クレーン運転・玉掛け技能講習・物流経営士（物流大学校）・物流技術管理士

TOEIC 受験



□TOEIC 受験

国際物流の強化・グローバル人材育成のため、社内で定期的なTOEICの受験を推進しています。

今後も社員の語学能力の向上を支援していきます。

■業務改善提案の促進目標

職場環境の安全性や物流効率の向上、環境負荷低減等を目的とした業務改善提案を、全社員が提出できるようにシステムで管理しています。提出件数は四半期ごとに集計し、各部署への働きかけを行っています。

□業務改善提案の促進目標と結果

項目	2024 年度目標	2024 年度結果	2025 年度目標
業務改善提案件数	4,832 件	5,197 件	4,735 件

□提案グランプリ賞

提案者個人の提案評価点を累計した通算点数に応じ、提案グランプリ賞を授与しています。

項目	ダイヤモンド賞	金 賞	銀 賞	銅 賞	合 計
2024 年度受賞者数	10 名	18 名	38 名	80 名	146 名
受賞者数累計	66 名	167 名	341 名	763 名	1,337 名

■QCサークル活動の推進

活動を通じて、QC サークルメンバーの能力向上、明るく活気に満ちた職場づくりを推進しています。

小集団で業務の最適化・効率化に約 1 年間取組み、QC サークル大会に向けた活動を行っています。

2024 年 12 月 7 日に第 12 回 QC サークル大会が開催され、代表の 7 チームによる発表の結果、刈谷西物流センターが優勝しました。

表彰	部署
優勝	刈谷西物流センター
2 位	カリソー九州 宮田物流センター
3 位	岡崎営業所 ターミナル課

優勝 刈谷西物流センター



QCサークル大会



■健康管理の充実

毎年全社員を対象とした定期健康診断を実施しています。2 次健診が必要である社員に対し、2 次健診受診の案内を毎月行い、健康起因による事故の防止と、社員の心と体の健康管理に力を入れています。

□睡眠時無呼吸症候群（SAS）検査の実施（※1）

睡眠時無呼吸症候群の影響による事故防止対策として、簡易検査装置であるスクリーニング検査機器を自社購入し、定期的に全乗務員に検査を実施しています。

※1 睡眠中に無呼吸が断続的に繰り返される病気。その結果、日中に眠くなる、集中力や活力に欠けるなどの状態が生じる

■ 各種制度

社員が仕事と生活を両立できる働きやすい職場づくりに努めています。

「育児休業制度」や「介護休業制度」など、小さな子供や介護の必要な家族がいる社員を対象に、様々な制度を定め推進しています。小学校就学前までの勤務時間の短縮制度に加え、小学校3年生までは働き方を変えて継続して働ける制度を独自に設けています。

今後も多様な働き方を実現できるよう、制度の充実に取組んでいきます。

区分	制度	内容
育児	育児休業	最大子供が2歳まで休業できる
	時間外労働・深夜業の制限	子供が小学校就学前まで制限できる
	所定外労働の免除・勤務時間の短縮	子供が小学校就学前まで短縮できる
	育児時短終了後のパートタイム社員制度	子供が小学校3年生まで利用できる
介護	介護休業	原則として通算93日まで休業できる
	勤務時間の短縮	3年間に2回まで短縮できる
両立支援	在宅勤務	自宅を就業場所として働くことができる
	時差出勤	通勤・退勤時刻を前後にずらすことができる
	各種休暇	介護・子供の看護休暇が取れる

□ 育児休業を取得しやすい職場づくり

社員が性別を問わず、育児休業を取得しやすい環境にするため、ポスターを展開し制度を周知しています。育児休業を取得する男性社員も多くおり、男女共に育児に参加しやすい職場となっています。

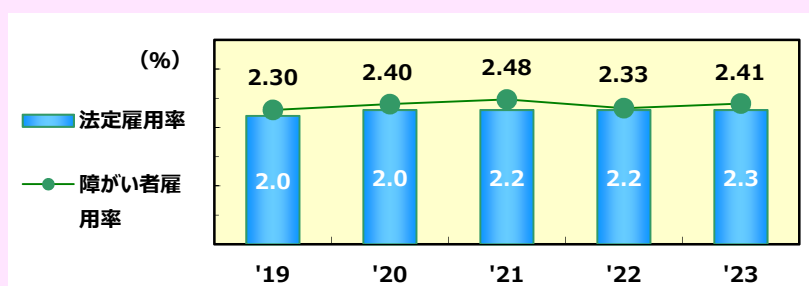
■ 障がい者雇用の推進

当社では、積極的に障がい者の採用活動を行い、雇用率の向上に取り組んでいます。

今後も引き続き、各特別支援学校への訪問、ハローワーク主催の面接会への参加等、障がい者雇用を推進していきます。

各職場の理解を深めるため、障がいについてまとめた冊子の配付などを行っています。

障がい者雇用率の推移（※1）



冊子の配付

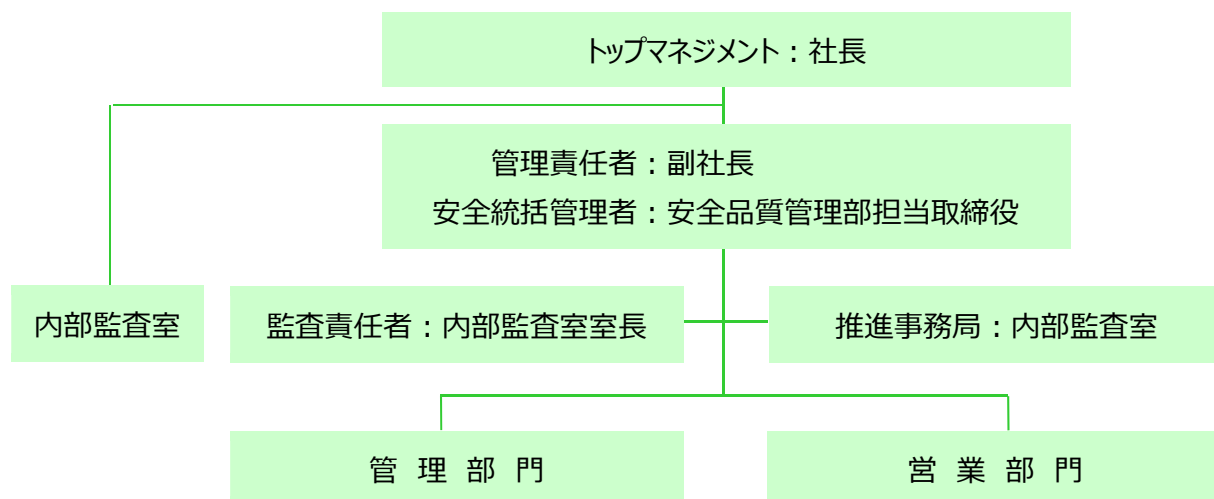


※1 データは2023年度現在。2024年度は集計中

5. コーポレートガバナンス

(1) マネジメントシステム

品質・環境・道路交通安全マネジメントシステム推進組織



■ 内部監査の実施

営業所の現地確認



毎年、内部監査を実施し、マネジメントシステムの有効性を確認しています。

発見された問題に対しては是正処置を実施し、また内部監査員から改善アイデアについての助言を行い、マネジメントシステムのレベルアップにつなげています。

■ 外部認証

Gマーク



□ 安全性優良事業所として認定（Gマーク）

安全性優良事業所とは、荷主企業がより安全性の高いトラック運送事業者を選びやすくするために、全国貨物自動車運送適正化事業実施機関（全日本トラック協会）が厳しい評価をし、認定した事業所です。

当社では、車両を保有している 17 事業所が認定を受けています。

□ 外部認証機関による ISO 審査

年 1 回、外部認証機関による、品質・環境・道路交通安全に関する ISO 審査を受け認証を継続しています。検出課題に対しては、是正処置・水平展開を行い、マネジメントシステムの維持・改善を実施しています。2024 年度末現在、ISO9001（品質）、ISO14001（環境）は本社及び電子デバイスセンター等の 38 拠点にて、ISO39001（道路交通安全）は岡崎営業所等の 4 拠点にて認証登録を受けています。

(2) リスクマネジメント

事業継続を困難とする地震・台風・水害・感染症等に備え、人命・健康を最優先とした BCP（※1）の策定に取り組んでいます。

防災対応力の向上を目的として、防災訓練や大規模地震対応ガイドの展開等、様々な取組みを進めています。

■ 事前対策

□ 防災マニュアルの制定

南海トラフ巨大地震を想定した、大規模地震対応ガイドを制定しています。

□ 防災対策用品の整備

災害発生時に備え、各事業所に防災対策用品を確保しています。
定期的に点検を行い、非常時に使用できるよう維持管理をしています。

□ 倉庫の震災対策

倉庫の震災対策として、製品の転倒・落下防止対策を進めて、安全面の向上に努めています。
具体的な取組みとして、スライド扉・側面ネットの設置、ストッパーや連結パイプの取付け等を実施しています。

□ 水害対策

豪雨や台風による水害対策の強化のため、全事業所に土のう袋と砂袋を配備しています。
土のう袋の使用方法和手順について資料を展開し、模擬訓練などで事前準備することで有事に備えています。

□ 防火対策

各事業所で日常点検表を活用して、分電盤類の清掃や漏電などの日次点検と巡回点検を行い、事業所や倉庫等、施設からの火災発生予防に向けた取組みを徹底しています。
社員への防火意識の向上のため、啓蒙資料や防火ポスターを掲示しました。
また、管理職を対象とした「職場における防火対策について」という内容について、外部講師の方によるオンライン研修が行われました。

□ 情報システムの対策状況

事業活動の継続に情報システムの維持は欠かせません。
当社では、業務システムとバックアップを最高レベルの BCP 対策が施されたデータセンターにて稼働、バックアップの 2 重化などの災害対策を実施し、震災等に備えています。
今後も最新 IT を研究し、オールカリツで、より一層の BCP 対策のレベルアップを進めて行きます。

大規模地震対応ガイド



※1 企業が自然災害・大火災・テロ攻撃などの緊急事態に遭遇した場合に早期復旧を可能とするために、平常時に行うべき活動や緊急時における事業継続のための方法・手段などを取り決めておく計画

□サイバーセキュリティ対策

サイバーセキュリティ対策として、EPPに加えてEDRなど最新のセキュリティ対策を導入しています。

EDRはマルウェアの侵入を検知し駆除や被害の最小化、迅速な復旧を支援する仕組みです。

また、外部のセキュリティ対策専門組織にて、社内のセキュリティ状況をリアルタイムで24時間365日監視する仕組みを導入しています。

対策の一環として、セキュリティ被害によるシステムダウン時の運用フロー作成、代替運用の準備による被害影響の最小化の対応、バックアップの2重化・複数世代管理、全社員に対して「情報セキュリティ教育」を毎年実施し、適切な情報資産の取扱や、コンピュータウイルス感染防止や感染時の対処等を教育しています。社員一人一人のセキュリティ意識レベル向上のため、定期的に本物同様の挙動をするウイルスメール訓練を行い、決められた対応ができるか確認しています。

情報セキュリティ教育資料

1. 導入(3)在宅勤務について

現在、在宅勤務の実施により、社外でモバイル端末（モバイルPC・スマートフォン等）を業務利用される方が増えています。社外での端末の利用、管理には充分注意をしてください。

在宅勤務で端末を持ち出す場合

- ・紛失、盗難、盗み見等に備え、社外でデータをパソコン上に保存しない
- ・交通機関での移動の時は必ず手元に置き、取り扱いに注意する（横等に置かない）
- ・自宅以外（喫茶店や公共の場など）で使用しない

不特定多数の出入りする場所での利用、フリースポット[®]への接続は、**ウイルス感染や情報漏えい**の原因となります。
安全と想います、業務端末を接続しないように注意して下さい。

※接続情報が公開されている為、犯罪者がダークウェブ上で設置したり、通報を受取る事が容易に可能

犯罪者が通信傍受
ウイルス拡散！



3. 事例と対策(6)災害対策①データ消失対策

近年、自然災害が増えています。万が一に備え、**データのバックアップ**（複製保存）を行いましょう。

※バックアップデータは、災害時の復旧のみでなく、**パソコン故障時や、ウイルス感染時の復旧にも必要です**

・作成したデータは、各自でバックアップを行うこと
パソコンが故障した時、データを復旧できるよう、**日常的に外部媒体にバックアップを行ってください。**

※バックアップ対象※

- ① 各種で作成・保存したデータ
例) Excel、PowerPoint等のファイル

ソフトウェアや業務システムは
情報システム部で管理を行う為
バックアップは必要ありません。

情報システム部では各自で作成・保存したデータの復旧はできません。

必ず各自でバックアップを実施してください。

主なバックアップ保存先としては、以下を適用してください。（適用は各部署に一律）

- ① 外部記憶装置（USBメモリ、外付HDD）
- ② 外部記憶媒体（CD-R/RW、DVD-R/RW）
- ③ 別のパソコン（部署共有フォルダ等）

保存先が故障する可能性を踏まえ、
定期的に入れ替・複製を行ってください。

全社一斉防災訓練



□全社一斉防災訓練

当社は、災害対策組織を編成し毎年定期的に訓練を行うことで、万一の災害に備えています。

2024年9月25日、カリツ全社で、地震の発生を想定した一斉防災訓練を実施しました。

訓練では、避難訓練の実施、緊急地震速報装置のテスト放送訓練、セコム被害状況を活用した被災状況報告訓練、IPトランシーバーを使用した災害状況報告訓練が行なわれました。

また、セコム安否確認訓練、防災管理指示書の見直しなどが行なわれました。

定期的に防災訓練を行なうことで、より良い防災体制を築いていきます。

カリツビル防災避難訓練



□カリツビル防災避難訓練

2025年3月27日、地震の発生を想定したカリツビル防災避難訓練を実施しました。

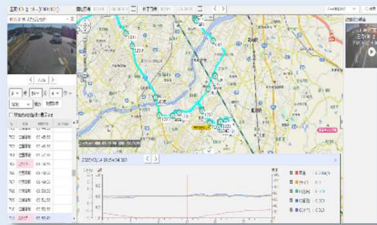
訓練では、一時避難場所への避難訓練、「職場で取組む防火管理」ビデオの視聴などが行われました。

□安否確認システムと安否確認訓練の実施

企業の危機管理の一環として、災害時における社員と家族の安否を確認するために「セコム安否確認システム」を運用しています。

災害時、全社員の安否確認を確実にを行うため、各四半期末に繰り返し訓練を実施しています。

車両動態管理システム



□車両動態管理システムの運用

「セコム安否確認システム」と合わせ、災害発生時に車両と乗務員の位置情報を即座に管理者が把握できるよう車両搭載のデジタコを運用しています。

オーバースライダー



□オーバースライダーの導入

停電発生時に設備を稼働できるように、倉庫の出入口にオーバースライダーを導入しています。

オーバースライダーは、天井のレールの上をスライドして収納するため、シャッターよりも開閉速度が速く、静かです。手動で簡単に開閉できるため、停電時でも使用することができます。

非常用発電機



□非常用発電機の増設

BCP 対策強化の一環として、大型の非常用発電機を増設しました。予期せぬ事故や災害などの緊急事態に備えた電力を確保することで、事業の継続に努めています。

□バッテリーフォークリフト非常用電源装置の導入

複数の事業所に、バッテリー式フォークリフトを使用した非常用電源装置を導入しています。

停電発生時にフォークリフトと機器を接続し、非常用電源として活用できます。

(3) コンプライアンス

コンプライアンスはCSR経営の基礎であるとの認識を持ち、磐石なものとして取り組んでいます。

特に、貨物自動車運送事業者として、公道を使用させて頂いているという意識を持ち、トラックドライバーの「改善基準告示」への対応等、関連法規の順守に努めています。

■法令順守に向けた取り組み

□2024年問題への対応

2024年4月からトラックドライバーの時間外労働時間の上限規制が適用されたことで、ドライバー不足、輸送能力の低下、輸送コストの増加、などが物流業界全体の課題となっています。

当社では、これらの課題に対し、事前に対応策を検討し準備を進めてきました。

具体例として、長距離便の中継地を整備し、乗継輸送に対応することで効率的な輸送を実現し、乗務員の時間外労働時間の削減を図りました。

また、自社車両だけでなく、協力会社車両についても、当社に関係する労働時間の実態と管理状況を調査した上で配車全体を見直すなど、運行管理の強化に努めました。

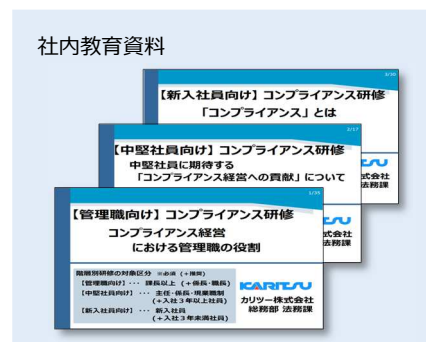
結果、2024年度については違反者を出すことなく業務に対応することができています。

□法順守評価の実施

毎年、「法順守事項一覧・評価表」を更新し活用することで、社内の法順守状況の確認をしています。

各部署でセルフチェックを行い、その結果をもとに法務課がさらに現地で立合い評価を行い、関連法規の順守状況の確認、不適合項目の是正・フォローを実施しています。

同時に、社内関係部署と情報を共有することで、会社全体の法順守意識の向上に努めるとともに、法改正にも都度対応し、社内への情報発信や必要に応じた教育を実施しています。



□社内教育資料の展開

重要法規やコンプライアンス関連の教育資料を作成し、社内の研修や、情報発信に活用しています。

特に、コンプライアンスについては、階層別研修（新入社員・中堅社員・管理職）を実施することで社内のコンプライアンス意識の向上に努めています。

□社内相談・内部通報窓口の設置

当社で働く全ての社員が働きやすい環境をつくるため、ハラスメント等に関する相談や、法令等違反行為などの相談・通報を受け付ける社内窓口を設置し対応しています。

□個人情報保護の取り組み

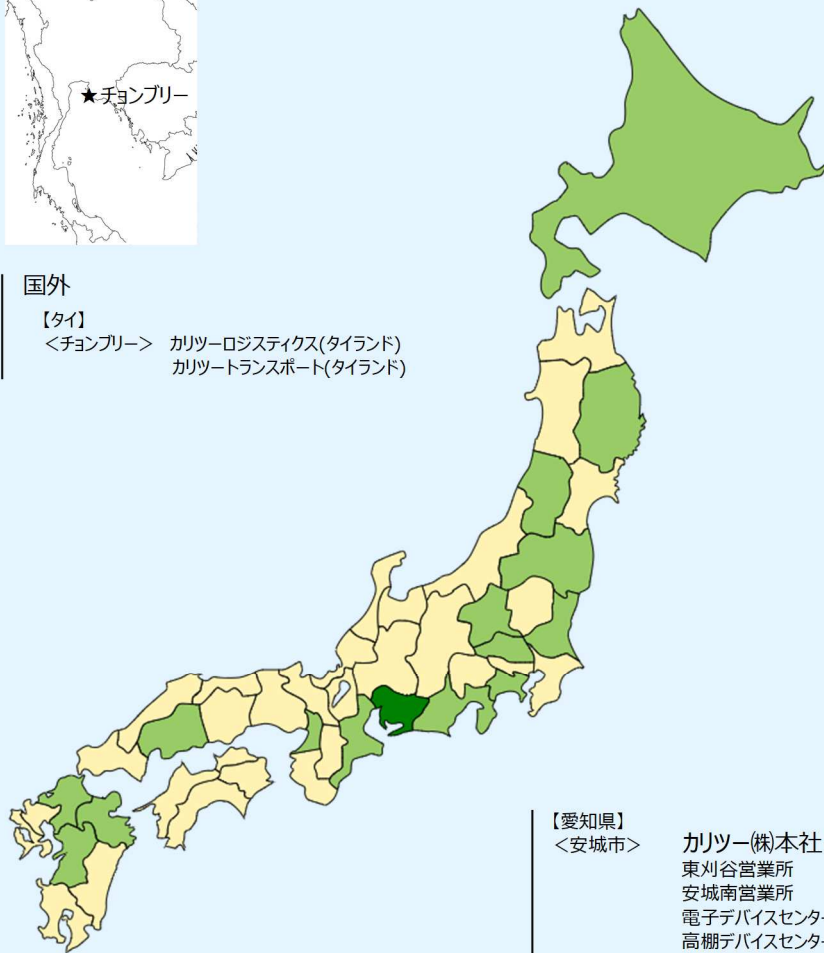
当社の事業活動を通じて得た個人情報の保護に努めることを社会的責務と認識し、個人情報の取扱いに関する法令、行政機関が定める指針その他の規範を遵守するとともに、業務に従事する全ての関係者に周知徹底を図ります。

営業拠点一覧



国外

【タイ】
 <チョンブリー> カリツ-ロジスティクス(タイランド)
 カリツ-トランスポート(タイランド)



国内

【北海道】 苫小牧営業所
 カリツ-北海道 本社営業所

【岩手県】 カリツ-東日本 岩手金ヶ崎物流センター

【山形県】 カリツ-東日本 山形出張所

【福島県】 カリツ-東日本 郡山本社
 カリツ-東日本 郡山南営業所

【茨城県】 茨城営業所

【埼玉県】 埼玉営業所

【群馬県】 群馬営業所

【神奈川県】 神奈川営業所

【静岡県】 静岡営業所

【三重県】 三重いなべ営業所

【大阪府】 大阪営業所

【広島県】 広島海田物流センター
 広島志和営業所
 広島西条営業所

【福岡県】 カリツ-九州 北九州営業所
 カリツ-九州 福岡営業所
 カリツ-九州 宮田物流センター
 カリツ-九州 苅田営業所

【大分県】 カリツ-九州 大分中津営業所

【熊本県】 カリツ-九州 熊本菊池物流センター

【愛知県】
 <安城市> カリツ-㈱本社
 東刈谷営業所
 安城南営業所
 電子デバイスセンター
 高棚デバイスセンター
 東端物流センター
 高棚配送センター
 カスタマーロジセンター70
 安全教育研修センター

<刈谷市> 刈谷北営業所
 刈谷中央物流センター
 刈谷物流センター
 刈谷西物流センター
 小垣江物流センター
 ロジテム小垣江

<知多郡> 衣浦物流センター

<名古屋市> 名古屋オフィス

<豊田市> 岡崎物流センター

<みよし市> 豊田西物流センター
 みよし物流センター

<岡崎市> 岡崎営業所
 岡崎東営業所
 ロジテム岡崎

<西尾市> 西尾東物流センター
 西尾営業所
 西尾北物流センター

<豊橋市> 豊橋営業所

<田原市> 田原物流センター

<海部郡> 名港営業所



カリツ-株式会社

お問合せ先：経営企画管理部 企画管理室

〒446-8540 愛知県安城市三河安城町一丁目 4 番地 4

TEL (0566) 73-5619 FAX (0566) 73-5627

URL : <http://www.karitsu.co.jp/>

2025 年 6 月発行